



るうてる



2018年
9月
No.849

●発行所 ■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

●ウェブサイト ■ <http://www.jelc.or.jp>

●E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

●発行人 ■ 安井宣生 koho06@jelc.or.jp

●印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社

●定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)

●振替口座 ■ 00190-7-1734

説教 「ぶいぶいくるのか」

日本福音ルーテル小鹿教会、清水教会 牧師 秋久 潤

また、イエスは言われた、「神の国は次のようなものである。人が土に種を蒔いて夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。土はひとりでの実を結ばせるのであり、まず茎、次に穂、そしてその穂には豊かな実がでる」 (マルコによる福音書4:26-28)



てくださるのは神です。人の努力は、成長の促進も妨害もできない。土が人の手を離れて「ひとりでの実を結ばせるからです。この成長が、神の国にたとえられていきます。神の国は「神が支配しておられるところ」であり「キリストのゆるしと愛が支配するところ」なのです。ゆるしと愛は、私の努力によって獲得するのではなく、神が恵みとして与えてくださる。「どこにいるのか」と問われれば「私は、キリストのゆるしと愛が支配しているところにいる」と答えることができま

⑥「なんのために生まれてなにをして生きるのか、答えられないなんて、そんなのはいやだ」やなせたかし



コラム
直線通り
久保彰彦

困って泣いている子がいたら必ず立ち止まり、顔パンを分け合う、そんなアンパンマンに魅された幼い頃のわたしの夢は「アンパンマンになりたい」でした。中学生で聖書と出会ったわたしはアンパンマンとキリストを重ね「イエス様ってアンパンマンみたい」と感じたほど、誰よりも傷つき、痛みを知り、優しく微笑み、強さを誇らない。大好きなアンパンマンを感じさせるキリストとわたしの出会いは「なんのために生まれて、なにをして生きるのか」に答える歩みの始まりでもありました。

困って泣いている子がいたら必ず立ち止まり、顔パンを分け合う、そんなアンパンマンの姿に励まされた日もありました。

私は幼い頃、父親と教会に通っていました。その後、私たちは教会を離れ、キリスト教とのつながりは途切れます。地質学が好きな父は、私を山登りにも連れていってくれたのですが、趣味を無理強いすることはありませんでした。最近になって私も「地」や「土」に関心をもちようになりました。

「土」といえば、土と人の間には密接な関わりがある。と創世記に書かれています。土から人は造られ、神が地に命じると草木が生え、神のようになろうと。私にとっては家族を守る裸であることを知り、いちじくの葉で腰を覆います。隠れるアダムに神は「どこにいるのか」と呼びかけるものの、アダムもエバも責

任転嫁をしないでしまいが、人が罪を犯すと土が呪われ、作物が実らなくなります。その後、土地(居場所)を求めてイスラエルの民はさまよい、そこに神が同伴されます(創世記から申命記)。

「立派だから救われるのではなく、ありのままの私が神にゆるされ、受け入れられている」と感じました。そして、キリストに賭けてみようと思えました。教会に行かなければキリスト教は分からないと三浦綾子さんがおっしゃっていたので、以前とは別の教会に行ってみました。そこで居場所ができ、洗礼を受け、満たされた気持ちになりました。

「一粒の麦」は本来キリストを指しますが、「私自身」のことだと解釈し、キリストを信じる者には死を越えた先にも希望があると感じました。また、キリスト教について知るうちに

そんなアンパンマンは、ジャムおじさんが「勇気の花を用いて」心のあるパンを作ろうとした時に、偶然「命の星」が吹き

込まれてきた特別なパンでした。そして、ある時ジャムおじさんが崖から落ちてしまうのを助けたことで、アンパンマンは人のために生きる意味を見出し、困っている人に自らの顔を分け合う決意をします。特別なアンパンマンで生きる生まれながらにして「なんのために生まれて、なにをして生きるのか」を知っていたわけではなく、生きていく歩みの中で、命の意味に気づきました。そんなアンパンマンの姿に励まされた日もありました。



「一粒の麦」は本来キリストを指しますが、「私自身」のことだと解釈し、キリストを信じる者には死を越えた先にも希望があると感じました。また、キリスト教について知るうちに

そんなアンパンマンは、ジャムおじさんが「勇気の花を用いて」心のあるパンを作ろうとした時に、偶然「命の星」が吹き

込まれてきた特別なパンでした。そして、ある時ジャムおじさんが崖から落ちてしまうのを助けたことで、アンパンマンは人のために生きる意味を見出し、困っている人に自らの顔を分け合う決意をします。特別なアンパンマンで生きる生まれながらにして「なんのために生まれて、なにをして生きるのか」を知っていたわけではなく、生きていく歩みの中で、命の意味に気づきました。そんなアンパンマンの姿に励まされた日もありました。

ルーテル聖書日課 読者の集い
毎年優れた講師が分かりやすくお話しくださり、信仰力が与えられます。全国にルーテル教会の友人ができる喜びもあります。

■日程/ 10月22日(月)~24日(水)
■主題/ 律法から福音へ
■講師/ 石居基夫先生 (日本ルーテル神学校校長)
■参加費/ 19,000円 (2泊6食) (個室は1,000円増)

■場所/ 軽井沢フェローシップバイブル キャンプ (長野県軽井沢町発地 1061-54) 北陸新幹線「軽井沢」から、しなの鉄道で2駅の「信濃追分」より送迎。

■申込み・問合せ/ ルーテル聖書日課事務局
申込みはV/Gキでお願います。
〒514-0823 三重県津市半田3424-81-204
FAX:059-253-8789 TEL:090-2685-7355

■申込金/ 10,000円 (参加費の内金)
■振込先/ 郵便振替 01080-4-12181
ルーテル「聖書日課」を読む会
■締切/ 10月13日



議長室から 大柴 謙治

二人または三人が集まるところには

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」とマイエスは言われました（マタイ18・20）。主は二人という小さな交わりの中にもご臨在すると約束してくださっています。この御言に慰め励まされ

てきた方は少なくないことでしょう。特に地方で少人数で礼拝を守っている教会にとってこの御言は切実です。自分たちの教会がこれからどうなってしまうのだろうかという先の見えない不安の中に

置かれているかもしれない。しかし主は小さな群れの中にも必ず共にいてくださるので、心配はいりません。教会（エクレシア）とは建物や制度ではなく、イエスによって呼び集められた聖徒の群れです。教会は基本的に「人」なのです（もちろん建物や制度も大切ですが）。アウグスブルク信仰告白の第7条に「教会は聖徒の群れであって、そこにおいて福音が純粋に説教され、サ

クリストの名によって集まる中、生ける復活のキリストの現臨（リアル・プレゼンス）が信仰者たちを根底から支え続けたと申し上げることができましょう。7月10日から12日の3日間、北海道特別教区の帯広教会（宣教開始1977年）、池田教会（同1956年）、釧路教会（同1966年）を教区長会で訪問してきました。各個人教会としてこれまで多くの信徒・教職がその信仰の歴史を刻んできたことを説教台や洗礼盤、壁に飾られた写真や御言は証していました。

とでしよう。建物の維持管理が困難となる中、帯広教会は池田礼拝堂と釧路礼拝堂を閉じるという決断を何年ものプロセスを経て祈りをもって行いました。家庭集会というかたちで信徒の方々を定期的に訪問して礼拝を守り続けることを選択されたのです。これも一つの「リ・フォーメーション」です。二人または三人を大切にしてくださいる復活の主が、関係者のお一人おひとりの上にその恵みと祝福とを豊かに注いでくださるようになり、私共も祈りいたします。

宣教百年記念東京会堂 大規模修繕完了

東京教会役員会

およそ3ヶ月の時間をかけて、7月末に日本福音ルーテル教会宣教百年記念東京会堂（東京教会）の大規模修繕工事が無事完了しました。1996年6月に日本福音ルーテル教会全体の会堂として建て替えられ、早22年の歳月が経過しました。そのため全体的な経年劣化による大規模修繕時期

を迎えており、昨年4月から設計者の西村晴道さん（静岡教会員）の協力を得て修繕の検討を始めました。昨年7月、専門業者に建物全体の劣化状況の調査を依頼した結果、建物外装の亀裂やサビ、内外のタイル浮きが多数あり、できるだけ早期の修繕が必要であると判定されました。

22年前の建て替えにあたっては、宣教百年記念会堂として多くの方々により神学的な検討が重ねられて設計され、また全国のルーテル教会の皆様

修繕後



修繕中



修繕中



ルーテル世界連盟 (LWF) 理事会報告

LWF理事 安藤 風

先日ジュネーブで行われたLWFの理事会に参加してきました。LWFはルーテル世界連盟の略で、98か国145のルーテル教会が加盟し、世界の平和と和解を目指して共に働く共同体です。年に一度の理事会で教会が直面している課題について話し合います。理事会の48人のメンバーは男性4割、女性が4割、青年が2割となるように、また地域や牧師と信徒

の割合なども決まっています。日本福音ルーテル教会もこのLWFに加盟しており、私は女性で青年の信徒として昨年理事に選ばれました。





豪雨災害でご苦労される方々に仕えるべく、西教区が支援活動に取り組みんでいます。連帯献金へのご協力にも感謝いたします。8月初時点で300万円を超える支援が寄せられています。

西教区では、シオン教会徳山礼拝所の支援のもと、ルーテル徳山ボランティアセンターを開設しました。活動の中心となる牧師たちは、それぞれ複数の教会の責任を負っていますので、毎日被災地へ通うことはできませんが、広島県呉市の社会福祉協議会による呉市安浦のボランティアセンターとの連携により、現地

で求められる具体的な作業に取り組みながら、寄り添う歩みが続けてきました。教区内はもとより、九州や東京などからもボランティアの参加を得ています。

以下、7月26日にボランティアに参加したルーテル学院高等学校の生徒さん(9名)と引率教諭の感想から部分的におわちします。

今まで嗅いだことのない臭いを経験しました。泥の中から子どもの靴やおもちゃ、キッチン用品などの生活感ある物がとりだされるたびに、胸に刺さるような痛みを感じました。

被災者の方から「泥にうなされている感じ」と聞いて驚きましたが、共感もしました。「やつてもやつても終わらない」ということも聞いて、もつとお手伝いしたいと思いました。

心に傷を負っている方は少なくないと思像しています。泥だし等の作業ボランティアと同様に被災者への寄り添いなく

ニーズへの対応を中心とした活動も大切だと思います。機会があればそういったボランティアに参加してみたいです。

受け入れて頂いた牧師の方々、ボランティアセンターの方々、本当にありがとうございました。ごさいました。

被災者の方々の心遣いも生徒たちには大変ありがたかったです。

西教区による活動報告や連帯献金への情報は、以下のURLよりご確認ください。

<https://jelc-news.blogspot.com/>



第20回ルーテル子どもキャンプ報告

キャンプ長 池谷孝史

8月7日から9日まで、広島教会を会場に標記のキャンプが行われました。

テーマは「来んさい広島Peaceじゃけん」、主題聖句は「平和のきずなで結ばれる」エフェソ4章3節。

全国から集まった27名の小学5、6年生が5つのグループに分かれて、3日間生活を共にし、様々なプログラムを通して平和について考えました。

初日、伊藤節彦チャプレンによる開会礼拝からキャンプ開始。その後、アイスマルティングでゲームを楽しむことで、緊張気味だった子どもたちの心が少しほぐれました。

2日目は朝からグループごとに平和記念公園へのハイキングへ出発。ここでは、平和記念資料館や原爆の子の像(被爆が原因で亡くなった12歳の少女の像、韓国人原爆犠牲者慰霊碑、原爆ドームなどの各ポイント)を、シールを集めながら見て回りました。キャンプに来るまで、原爆やそれにまつわる悲惨な出来事を知っていた子どももいなかった子もいましたが、原爆投下の現

実に向き合ってみて、皆柔らかい心で何かを感じ取ったようです。

当日は、暑さが厳しい中でのハイキングでしたが、全員の健康が無事に守られました。そして、その日の夜のプログラムで、平和と平和ではないとはどういふことなのかをそれぞれが考えた後、チャプレンから聖書の語る平和についてのメッセージを聞きました。

最終日には、このキャンプを通して学んだことや感じたことをそれぞれが皆の前で、発表しました。子どもたちは戦争の恐ろしさを思いつつも、平和を大切に、それを求める自由な気持ちや、キャンプ中に楽しかった思い出などを一人一人の言葉で表現してくれました。

最後に平和の鐘を鳴らして帰途につきました。

キャンプにおいて子どもたちが平和について考えを深めたことと共に、友達や年上のリーダーと一緒に過ごしたことも忘れられない素晴



らしい思い出となつて、きつと子どもたちの中にこれからも残っていくことと思います。皆様のお祈りとお支えに感謝いたします。



「いわき放射能市民測定室たちね」の歩みとわしたたち

企画委員 小泉 嗣

私たちが細々とですが支援を続けている「認定NPO法人いわき放射能市民測定室たちね」は設立7年を迎えています。従来より続けられている全身放射能測定、食材、土壌、資材・植物、海水等の放射能測定に加え、海洋調

査や子どもたちが日常多くの時間を過ごす学校や保育園などの埃の測定、また昨年5月よりはじまったクリニックの事業など、その活動は多岐にわたり、地域に生きる人々の「日常」に寄り添うものになっています。

活動の詳細は事業報告から決算報告にいたるまでウェブサイトに詳細に記載されているので、ここであえて取り上げることはしませんが、展開される事業は個人・母親グループ・教育委員会等と、そこに生きる人々として顔と顔を合

わせ、そこに生きる人々の思いをしっかりと受け止めたものであるように思います。

その真摯な姿勢は「被ばく後の世界」(事業報告に記された重い、厳しい言葉でした)に生きる現実のゆえの姿勢であるのだと思います。そしてこの「被ばく後の世界」という言葉は、決して「被ばく前の世界」に戻ることはいかならないという現実を突きつける言葉であり、また福島やいわきに生きる人々だけの言葉ではなく、「後の世界」にしてしまった私たちの責任を問う言葉であるよう

にも思いました。

プロジェクト3・11は2014年3月にルーテル教会救済よりその活動の思いを引き継ぐ形で東教区ではじめられ、その活動の節目と定めた5年を2019年3月に迎えます。災害支援としてはじまった活動は同時に被ばく後の世界を生きる私たちの生き方を自らが問う活動であったと改めて思い返しています。

2012年5月の全国総会で採択された「一刻も早く原発を止めて、新しい生

き方を! 日本福音ルーテル教会としての『原発をめぐる声明』の末尾に記された言葉をもつて結びます。

「この呼びかけを手始めとして、日本福音ルーテル教会の各教会・教区・全体教会レベルで『原発の安全性に関する問題性』、『放射能被曝に関する問題性』、『放射能廃棄物処理の問題性』、『核兵器廃絶との関係』、『世界のエネルギー政策とそれに関わる生活様式について』、『環境問題』等に関する学びを含めた取り組みを開始していきます」



追悼 ルンド宣教師



ルンド先生。なんとも懐かしいお名前である。

浅見正一(定年教師)

私が札幌教会より甲府教会に転任してきたときには、ルンド先生はすでに甲府教会で伝道についておられた。甲府というように地方の小都市において、アメリカ人は極めて珍しかったに違いない。それ故、町中のほとんどの人々がルンド牧師というアメリカ人をよく知っていたものと思われる。つまり甲府の有名な人であった。人柄もよく、町中の人々に愛されていたと言っても決して過言ではないであろう。

第28回総会期 諸委員一覧

総会で選出された常議員の他、室長、主事に加えて以下の委員が、第1回常議員会において承認されました。ご奉仕を感謝し、主のお支えを祈ります。

恵理香(第28回総会選出
2022年5月末まで)
人事公営委員

秋山仁/内藤新吾/太田一彦
小出聡子/池田富雄
信仰と職制委員

宮本新/小副川幸孝/三浦知夫/石原修/竹村洋子/小口むつみ
報奨委員

▼常設委員会(常議員会選出)

機関紙委員会

安井宣生/宮本新/滝田浩之/中嶋羊子/日笠山吉之/内藤文子/水原一郎/小泉基
神学校/ルーテル学院委員会
石居基夫/坂根信義/氏家純一(2018年10月から2022年9月まで)
青田勇/松岡俊一郎/橋爪大三郎(2016年10月から2020年9月まで)
神学教育委員会

三浦知夫/李明生/宮本新/石居基夫/滝田浩之/青村ゆかり/池永清/木村猛
財務委員会
古屋四朗/木村猛/菅田恵一郎/竹田孝一/滝田浩之
社会委員会
小泉基/秋山仁/李明生/内藤文子/高田敏尚/佐伯里英子

▼常置委員(総会選出)

法規委員

白川道生/伊藤彰彦/岩切雄太/古財武久/久保彩奈
資格審査委員
田島靖則/西恵治
監査委員
沼崎勇/川口学
教師試験委員

小副川幸孝/田島靖則/沼崎勇/神谷智子(第27回総会選出、2020年5月末まで)
浅野直樹Sr./末竹十大/小林

TNG委員会
委員長 三浦知夫
ルター研究所 運営委員
滝田浩之
DPC運営委員会
関野和寛

▼派遣理事役員

日本福音ルーテル社団
浅野直樹Sr./森下博司
日本キリスト道友会役員
滝田浩之/斎藤幸一
日本キリスト教連合会
滝田浩之
日本聖書協会議員
滝田浩之
部連連任委員 沼崎勇
マイノリティー宣教師
滝田浩之/李明生

▼その他の委員会

エキメニスム委員会
永吉秀人/石居基夫/宮本新/安井宣生/江口再起/滝田浩之
世界宣教委員会
永吉秀人/浅野直樹Sr./関野和寛/八木久美/宮本新/滝田浩之
LWF/WCASA委員
望月通子
宣教師j3オリエンテーション・ケア委員会
浅野直樹Sr./高村敏浩
熊本地区推薦/杉本洋一
メディア伝道委員会
加納寛之/滝田浩之/安井宣生/宮川幸祐
任用試験委員
大柴譲治/永吉秀人/滝田浩之/古屋四朗/木村猛/伊藤百代/教師試験委員長
憲法規則改正委員会
白川道生/末竹十大/岩切雄太/沼崎勇/西川昂子/松岡俊一郎/滝田浩之
教員資料編纂委員会
滝田浩之/宮本新
式文委員会
平岡仁子/石居基夫/浅野直樹Sr./松本義宣/中島康文/多田哲

讚美歌委員会
日笠山吉之/松本義宣/中山康子/萩森英明/ハンナ・ペンティネ

第26回秋のディア コリアセミナーの ご案内

人も、食物も、すべての「命」は「土」からつくられます。そして土からつくられたものを食し、私たちは命を育みます。しかし私たちは往々にして「人はパンだけで生きるものではない、神の口から出る二つの言葉で生きる」というイエスさまの言葉の後半部分に重きを置いて聖書を読むことが多いのではないのでしょうか。「パン(食物)」に、そしてそのパンを生み出す「土」に目を傾け、思いを巡らしてみましよう。

農業を通して隣人を愛し、平和な未来を願う人を育む教育に取り組む、日本で一番小さな農業高校である愛農学園高等学校が会場です。

交通費、宿泊費は自己負担となります。

12時 昼食
13時 閉会の祈り

■テーマ/土に生きる

主催/日本福音ルーテル教会全国ディアコニア・ネットワーク

■主題聖句/主なる神は、土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。(創世記2:7)

■申込み・問い合わせ/日本福音ルーテル千葉教会 (FAX)043-244-8018、メール chiba@jalc.or.jp)

■日時/2018年10月7日(日) 19時~8日(月) 13時30分

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

■参加費/3千円(会場使用料・茶菓・8日食事代など)

10月8日(月) 6時 農作業の見学
7時 朝食
8時 愛農学園の見学
10時 主題講演
上村真平さん(全国愛

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

21時 終了

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

20時 発題 中井弘和さん(小鹿教会)

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

19時 開会礼拝 メッセージ 泉川道子さん(愛農学園教頭)

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

18時30分受付(小講室)

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

17時 泉川道子さん(愛農学園教頭)

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

16時 発題 中井弘和さん(小鹿教会)

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

15時 開会礼拝 メッセージ 泉川道子さん(愛農学園教頭)

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

14時30分受付(小講室)

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

13時 泉川道子さん(愛農学園教頭)

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

12時 発題 中井弘和さん(小鹿教会)

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

11時 開会礼拝 メッセージ 泉川道子さん(愛農学園教頭)

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

10時30分受付(小講室)

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

10時 泉川道子さん(愛農学園教頭)

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

9時 発題 中井弘和さん(小鹿教会)

■会場/愛農学園高等学校 (三重県伊賀市別府690)

8時 開会礼拝 メッセージ 泉川道子さん(愛農学園教頭)

日本福音ルーテル教会 教師試験実施のお知らせ

2018年度「日本福音ルーテル教会教師試験」を下記要領にて実施いたします。

教師志願者は必要書類を整え、教会事務局にご提出くださいますようお願い申し上げます。

記

- 提出書類
 - 教師志願書
 - 志願理由書
 - テーマ「なぜ『日本福音ルーテル教会の教師』を志願するのか」—あなたが考える宣教課題をふまえて—
 - 書式 A4横書き
フォントサイズ11ポイント
 - 履歴書(学歴、職歴)
- 提出先
 - 健康診断書(事務局に所定の用紙があります)
 - 提出先
日本福音ルーテル教会 常議員会長 大柴譲治 宛
 - 提出期限(期限厳守)
2018年9月21日(金)午後5時までに教会事務局へ提出すること
 - 試験日及び試験内容
志願者本人に直接連絡します。



愛農学園